

【ねがいはましては】

平成26年2月25日
第280号

KYOWA SCHOOL

「たいせつなこと」

それぞれの顔が違うように、受験生たちの取り組みもそれぞれ……。

今年の受験生たちは、過去問一色といった感がありました。インターネットから、結構多くの過去問題が拾えるのです。各都道府県のそれは、「へー」といった特色のあるものもあり、楽しむには最適といえました。

黙々と取り組む表情からは、「どうしよう」などといった不安は感じられません。「やるぞ」といった前向きなものしかうかがえません。

私自身、合格のための勉強は、本来の「学び」から少々逸脱したものと感じていただけに、100%乗り気ではなかったのですが、人を成長させるための一手段としては、あってもよいものかもしれないと感じるようになりました。

やらされる勉強から、やろうとする勉強へのギアチェンジが彼らの表情にはあります。

ただひとつだけ、ぜいたくな考えかもしれませんが、彼らの生きざまに注文があります。

合格するためだけの取り組みにしてほしくないということです。取り組んでいることは、大切な基礎の段階が多くあります。その基礎を携えて高校へとつながっていきます。その準備を今おこなっている……。

よく某進学塾の窓ガラス一面に〇〇高校合格といった張り紙がびっしり貼ってあるのを見かけたりしますが、それは塾側の、保護者側のおごりのように見えてしまいます。

たいせつなこと、どこまで前向きな自分を発揮できたか……。これから後、彼らはやがて親元を離れ、自立へと舵を取っていきます。その舵取りをたくましい姿で行っているのか、それともおっかなびっくりで、親の手を借りながらとっているのか……。それともまったく舵などとうろとしないのか……。その分かれ目こそが高校受験なのかもしれません。

合格したければ志望校を下げればよいのです。合格したければ、併願でなく単願で申し込めばいいわけです。その制度そのものに疑問がありますが、合格の切符を手にする近道ではありません。

自分自身を試してみたい、自分自身が生きているぞという感触を肌で感じてみたい。その一つに受験があるのかもしれない。

落ちてもいい、合格でもいい、とにかくやるだけのことはやってみよう。けっして歩みは止めないぞ……。という気概が手に入れば、結果などどうでもよいことなのではないでしょうか。社会生活の中での失敗への予行練習かもしれません。

「やったー、合格した。」……そのあと誰もが一瞬のすきを作ります。「受験勉強から解放されたー。もう勉強なくて済むー！」……歩みが止まった瞬間。

「不合格。」……悔しい！とにかく悔しい！ さあ、歩くぞ……。歩みは止まっていません。真剣に取り組めば取り組むほど、悔しさが残ります。自分自身への大きなバネの誕生の瞬間です。そこには他人など存在しません。比べもない、成績でもない。ただ自分自身の生き様へのくやしきのみです。

ただ最悪の不合格があります。「やっぱね、どうでもいいけどね。」これが最も自分自身だけでなく、ご家族も含めて苦しみの極みへと前進してしまいます。

合格でも、不合格でも、本人が前向きであったのなら、ご家族も安心です。

社会は結果主義です。今おこなわれている冬季ソチオリンピック。メダルを取る方々はほんの一握り。連日、メダリストたちの演技が報道され、喜びのインタビューが繰り返し流れます。ぼくも、わたしも将来そうなりたいと思う子どもたちが多くいることと思います。90%以上の敗者たちのその後のドラマを報じることは少ないと思います。視聴率がそうさせるのでしょうか。

あれほど多くのマスコミが取り上げていた高梨沙羅さんは、メダルが取れなかったことで、その登場回数は激減しています。子どもたちに伝えなくてはならないことは、彼女のオリンピックまでの過程とご家族の姿。何よりも褒めてあげなければならないことは、その生き様です。そして私たちが考えなければならないのは、高梨さんにかかる言葉です。これをお読みになられている方なら、どのような言葉を用意されますか。

今年、縁あって受験生として、このKYOWAで取り組まれた方々は、まさに全員が高梨沙羅さんです。ご家族の声援を受け、一途に取り組まれたその姿こそがメダリスト……。あなた方一人ひとりが主役の座にいます。どう生きようと自由、どう取り組もうと自由。一心にご家族の期待を背負い、今があります。そのご家族がもっともほっとされる瞬間は「合格」なのかもしれませんが、私は全く違います。

常に先を見つめること。歩みを止めないこと。今を精いっぱい生き切ることです。

「合格。よかったよかった。さて、次だね。今日はどこを歩こうかな。高校の勉強、楽しいですよ。いつものようにマイペースで歩いてみよう。」 さきほどの沙羅さんへの言葉……。私は「ありがとう」です。なぜなら、精いっぱいな姿を見せていただいたからです。だから受験生諸君、あなた方にも「ありがとね！」